令和4年度千葉県獣医師会第1回学術セミナー

VALVE studyと心原性肺水腫について

開催日時　令和4年7月31日（日）　13時30分 ～ 16時00分
QRコード又はURLからお申し込みください。申し込み締め切り7月22日。
https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScu8eSGYyENs9g7DdBt9mWevWP-U8WJLuwS048LEaLCuTuNUw/viewform

視聴URLは後日メールでお送りします。
参加費 **無料** 、接続定員500名まで

奇跡を体験し、救急診療にのめりこんだ

プロフィール

2007年 3月 酪農学園大学 獣医学部（伴侶動物医療部門 麻酔科）卒業
2007年 4月～ 愛知県茶屋ヶ坂動物病院に勤務、心臓外科、心臓麻酔、体外循環、集中治療を学ぶ
2012年 6月～ 北海道ハート動物医療センター、富良野アニマルクリニックに勤務
2014年 1月～ 札幌夜間動物病院に勤務、現在に至る
2018年 3月　酪農学園大学にて博士（獣医学）を取得
千葉県　木更津市　出身

川瀬 広大 Koudai Kawase
札幌夜間動物病院

理想の救急診療とは？

動物の状態が悪く一刻を争う状況だったとしても、複数の治療選択肢が用意でき、それぞれがどれくらいの救命率であるかを冷静に示してあげられるのが理想だと考えています。例えば、肺水腫で喀血している犬の飼い主には、「このまま内科的管理をしたら助かる確率は3割かもしれないです。でも、麻酔をかけて肺にたまった液体を排出させ、呼吸機能が回復するまで人工呼吸管理ができれば、5～6割の確率で助かる可能性があります」という提示ができ、その後は飼い主が選んだ選択肢を全力でサポートしていく形です。このように、重症患者の急性期をサポートし安定化させ、以後の治療につなげていくことが救急医の仕事だと思っています。

VALVE STUDY (バルブ試験)

2017年に発表されたEPIC STUDYではピモベンダンの早期開始（Stage B2から）により肺水腫や心臓関連死までの期間を大幅に延長することが示され、2019年のACVIMガイドライン改定の目玉となり、現在ではピモベンダンを早期から使用することが一般的になってきました。
2020年に発表されたVALVE STUDYはStage Cにおいて、そのピモベンダンとフロセミドの投与を前提に、ACE阻害薬の有無による生存期間への影響を調べました。結果として、ACE阻害剤の有無による生存期間への有意な影響は認められませんでした。この試験を踏まえて、ACE阻害剤の使いどころや意義について日本獣医循環器認定医でもあられる川瀬先生にご講演いただきます。

主　催：公益社団法人 千葉県獣医師会
協　賛：ベーリンガーインゲルハイム　アニマルヘルスジャパン株式会社

お問合先： 千葉県獣医師会　TEL 043-232-6980　Email info@cpvma.com